

West Breeze

Hiroshima City University's founding principle is to become an international university which contributes to world peace and to the prosperity of the community through education and research in science and art.



No.
092
April
2024
広島市立大学
広報誌

本学における学位取得者		※敬称略
本学大学院における博士学位取得者（2023年度 春季修了）		
情報科学研究科	博士（情報工学）	奥田 尚樹
芸術学研究科	博士（芸術）	阿不都沙拉木 尔肯
	博士（芸術）	ZHANG JUNJIE
平和学研究科	博士（平和学）	梅原 季哉
	博士（平和学）	森上 翔太
本学大学院で認められた論文博士学位取得者		
	博士（学術）	大東和 武司

2024年度学年暦 前期（4月1日～9月30日）			
4月1日（月）	—	5日（金）	春季休業
2日（火）			春季入学式
2日（火）	—	5日（金）	オリエンテーション・定期健康診断
3日（水）	—	12日（金）	前期履修登録期間
8日（月）			前期授業開始
30日（火）			月曜日の授業実施
5月20日（月）	—	31日（金）	補講週（6時限に補講を行う週）
6月3日（月）	—	7日（金）	第1ターム試験期間
14日（金）			開学記念日（授業実施）
7月16日（火）	—	29日（月）	補講週（6時限に補講を行う週）
30日（火）	—	8月9日（金）	前期定期試験
8月10日（土）	—	9月30日（月）	夏季休業
13日（火）			全学休業日
9月24日（火）	—	10月7日（月）	後期履修登録期間
25日（水）			秋季卒業式

ICHIDAI NEWS		多数の市大生が活躍しています。 最新のニュースはウェブサイトをご覧ください。	
学生表彰		メディア・受賞	
ニュース		イベント情報	
West Breezeについての ご意見やご感想はこちらへ		広島市立大学 広報委員会 Mail kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp Tel 082 (830) 1666 Fax 082 (830) 1656	

 West Breezeの最新号・バックナンバーはウェブサイトからご覧いただけます。

広島市立大学広報誌のタイトル「West Breeze」は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。
【West Breeze 92号】 編集・発行／広島市立大学 広報委員会 発行日／2024年4月1日

 Hiroshima City University

役員等選任（変更分）	
地域共創センター長 田村 慶一	国際学部副学部長 高橋 広雅
理事長補佐 前田 香織	国際学部副学部長 大場 静枝
副理事（国際担当）・ 国際センター長 渡辺 智恵	情報科学研究科副研究科長 永山 忍
国際学部長 大庭 千恵子	

教員の人事異動	
退職・退任	新任
国際学部教授 青木 信之	情報科学研究科教授 松本 圭一
国際学部教授 福本 昌之	広島平和研究所教授 梅原 季哉
情報科学研究科教授 田中 公一	教育基盤センター教授 三吉 和彦
情報科学研究科教授 百武 弘登	教育基盤センター特任教授 青木 信之
情報科学研究科教授 満上 育久	教育基盤センター特任講師 坂本 規孝
芸術学部教授 倉内 啓	情報科学研究科助教 マーク・アウレル・カストナー
広島平和研究所教授 ナラヤナン・ガネサン	情報科学研究科助教 王 超
広島平和研究所教授 山田 康博	芸術学部助教 伊藤 学美
広島平和研究所特任教授 吉川 元	
昇任	
国際学部講師 山平 芳美	国際学部教授 森田 光宏
情報科学研究科講師 今井 哲郎	国際学部教授 山根 史博
芸術学部助教 田中 智美	情報科学研究科教授 齋藤 夏雄
情報科学研究科特任助教 仲吉 朝希	芸術学部教授 釣谷 幸輝
大学評価・IRセンター特任助教 中尾 走	情報科学研究科准教授 目良 和也
	情報科学研究科講師 ムハンマド・サルマン・アル・ファリシィ
	情報科学研究科講師 小林 真

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
Tel 082 (830) 1500 (代) Fax 082 (830) 1656
https://www.hiroshima-cu.ac.jp/

平尾（司会） 今日は広島市立大学開学30周年記念座談会にお集まりいただき、ありがとうございます。皆さんにそれぞれの立場からこの30年を振り返っていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

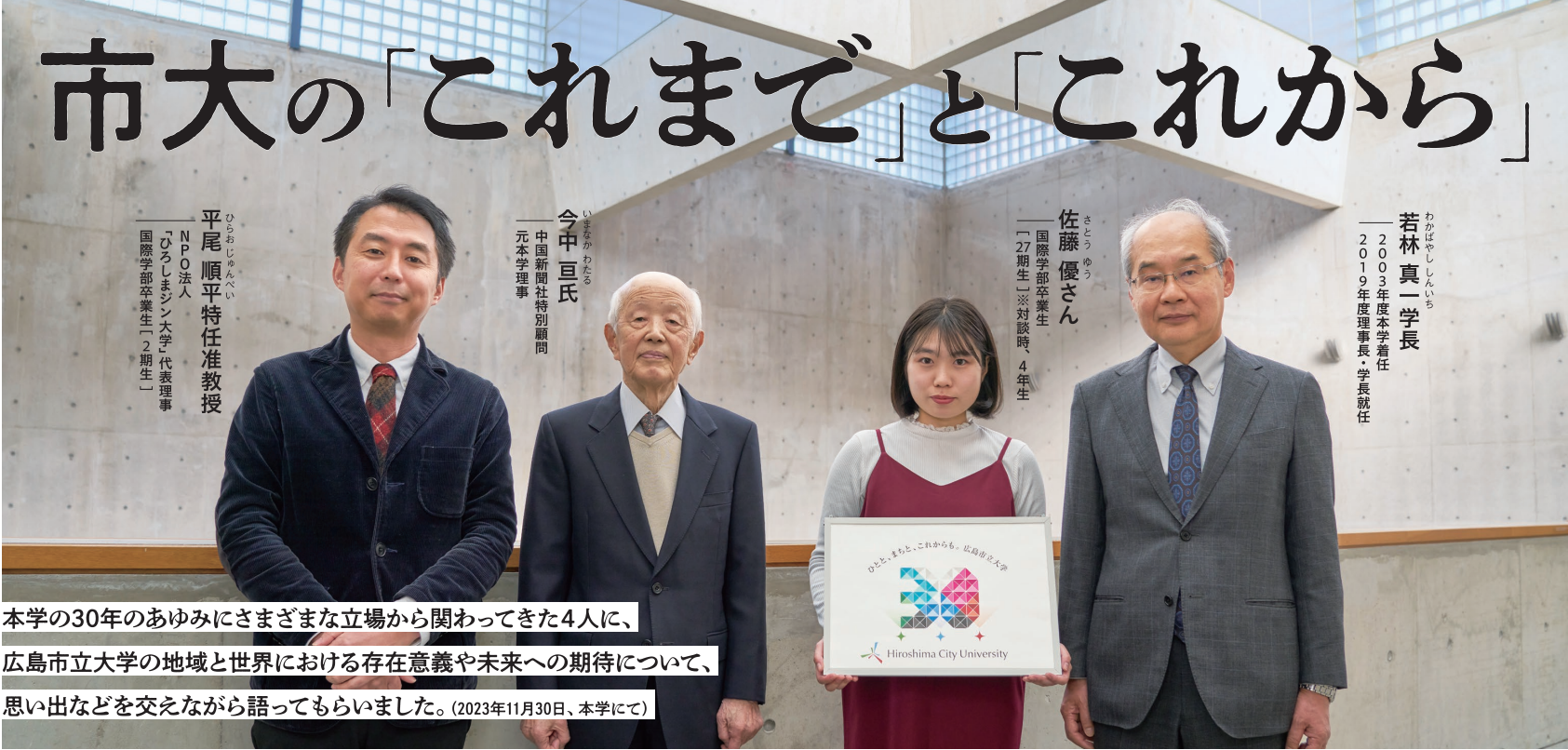
一同 よろしくをお願いします。

平尾 私は開学2年目の1995年に入学しました。大学もまだ「これから」という時期で、例えば講堂がまだ完成しておらず体育館で入学式をしましたし、今は立派になっている中庭の木も当時はまだ小さくて添え木がしていました。学生たちも、まだ先輩がいなかったので「この大学を作るのは僕たちなんだ」という思いがとてもし強かったですね。クラブ・サークルを立ち上げたり、学歌もコンペで作ったり。卒業してから、年の離れた後輩に会うと嬉しくて、この大学の文化を受け継いでくれていることに感謝しています。大学の創成期に関われたことがありがたいですし、喜びですね。



今中 私は、第2代学長の藤本黎明先生からの依頼で法人化前の2005年に評議会委員。その後、理事に就任しました。キャンパスに来てみて、緑豊かで、学生さんものびのび学んでいるという印象を受けました。図書館も蔵書が豊富ですから、時々立ち寄って、本を読んだり学生さんとも意見交換をしたりしていました。一線で活躍している卒業生は多いし、市民の一人として誇らしい大学だと思っています。

佐藤 私はコロナ禍1年目に入学したので、1年生の前期は授業も全てオンラインで、県外の実家で過ごしてい



本学の30年のあゆみにさまざまな立場から関わってきた4人に、
広島市立大学の地域と世界における存在意義や未来への期待について、
思い出などを交えながら語ってもらいました。（2023年11月30日、本学にて）

ました。友人作りなど学生にとっていろいろ難しかった時期ですが、私は広島に戻って国際学生寮「さくら」に住んでいたのが、友人はそこで作れました。

広島で学ぶ価値

若林 佐藤さんは熊本の高校を卒業したんですね。

佐藤 はい。もともとは仙台の出身なんですけど。広島市立大学に入学した理由の一つは広島平和研究所があることだったのですが、今そこで原爆関係の資料のアーカイブ化など研究補助をさせてもらったり、先生の紹介で広島平和記念資料館での資料整理のボランティアをやったり、広島市の大学に來たからこそできることをしています。

今中 反核・平和報道に力を入れている中国新聞社の記者をしていたので、シンポジウムなども開催して「ヒロシマ」を世界に発信している平和

研究所は重要なニュースソースでもあります。広島市にふさわしい大学ができて、当初の狙いどおりの成果が上がっていると受け止めています。

平尾 市大は、地域のつながりや地域への貢献を特に重視していますよね。広島における市大の存在意義を求められていますし。

今中 平和研究所があることは大きな付加価値なんです。それから、入学者は県外出身者が4割から5割を占めています。それはやはり広島でしか学べない研究と平和学習を提供し、そのための優秀な教職員を揃えているからだと思います。国際学生寮も併設されました。留学生がもっと増えて、国際的な知名度も上げてほしいと願っています。

多様性がつなぐ地域と世界

平尾 今はアジアからの留学生が多いですね。全国的な傾向でもあると思いますが、

若林 そうですね。中でも中国が一番多く、次が韓国ですね。芸術学部にはドイツやフランスなどヨーロッパからの留学生も来ています。今中先生もおっしゃいました、芸術が学べることに加えて、広島にあるということで本学を選んでくれる留学生もいるのではないかと思います。



平尾 在学中は、所属する国際学部以外の学部の学生との付き合いがあまりなかったのですが、卒業して地域社会に関わるようになると、一緒に仕事をする人たちの中に芸術学部や情報科学部の卒業生が多くなるんです。これは市大にとっての可能性なんだと分かったんですね。市大の3学部の多様性は強みであり、これを生か

した地域社会への関わり方が、卒業生も含めてできれば、「あの大学といえよ」という特長になると思っています。佐藤さんは卒業後の進路など考えていますか。

佐藤 修士課程に進む予定です。また、広島平和記念資料館でのボランティアを通じて興味を持つようになった学芸員の仕事に就きたいと思っています。この4年間に広島市の被爆について学んで、原爆投下に留まらず世界各地の核実験や原発事故などでも放射線の影響を受けた「グローバル・ヒパクシャ」にも関心を強く持つようになりました。広島中心の語りではなくて、世界のヒパクシャと連帯して、より広い場でより多くの人に「ヒロシマ」を発信する取り組みができるようにしたいと思っています。

今中 私は前線の新聞記者時代に、国連本部のあるニューヨークの支局勤務をしました。国際社会で活躍している日本人がまだ少なかった時代

です。広島でヒロシマを学び、海外へ出て行ってヒロシマを伝えることの重要性を認識しています。市大で学ぶ皆さんも切磋琢磨し、国際社会の一線で母校の後輩の刺激にもなるような活動をしてほしいと願っています。

市大の未来への期待

平尾 市大は、これまでの30年を振り返りつつ、次の30年、さらにその次の30年と続いていくわけですけど、最後にこれからの広島市立大学への期待を皆さんにお聞きしてもいいですか。

佐藤 普段いろいろな活動をしていても、被爆者の方たちを含めて市民の皆さんが持つこの大学への期待は大きいと思います。広島市立大学にしかできないことは本当にたくさんあると思うので、県内からの学生も県外や国外からの学生も、広島で学べることをどんどん更新、パワーアップさせていく、そういう場であり続けてほしいです。

今中 公立大学として教育研究の成果を地域へ還元することも大事な役割だと思うんですよ。市大の皆さんには、建学の基本理念に則って教育研究をしていくと同時に、メディアを通じて国の内外への発信やPRもどんどんやってほしいですね。

若林 30年前に打ち立てた建学の基本理念はこれからも変わりません。「国際平和文化都市」広島市の知の拠点として、小規模大学の良さ、3学部の多様性、教育研究を通じた平和の希求などの特色を生かしながら、開学30周年のキャッチフレーズ「ひとつ、まこと、これからも。」のように、これからも広島市民の皆さん、広島広域都市圏の皆さん、さらに世界の人たちと共に、この大学を成長させていきます。



30年後を思い描こう

理事長・学長 **若林 真一**
わかばやし しんいち

広島市立大学に入学された皆さんへ、ご入学誠にありがとうございます。

広島市立大学は1994年(平成6年)に開学しましたので、ちょうど今年は開学30周年の節目の年です。30年前、インターネットはすでにありましたが、ウェブは一般には普及しておらず、スマートフォンもなく、テレビはアナログ放送でした。

過去30年を大きく超える変化が今後30年で起きることは確実です。昨年、急速に普及したChatGPTに代表される生成AI(人工知能)は社会の在り方を根本的に変える可能性があります。30年後、皆さんが主役としてこの社会を動かすとき、どんな時代になっているかを思い描いてみてください。

皆さんが時代の大転換期を生き抜くためにこれから大学で何を学ぶべきか。知識や技能の習得はもちろん重要です。皆さんはそれぞれの専門分野で深く学問を探究することになります。しかしながら、知識や技能の習得はAIも得意とするとところ です。

AIの出力をそのまま受け入れるようになれば、人間はこの社会の主役ではなくなります。人間がこの社会の主役であり続けるためには、単なる知識や技能を超えた総合的な理解力や判断力、あるいは感性や審美感、倫理観、そして他者を理解しコミュニケーションを取る力が必要だと私は思います。それでは、そうした力をどうしたら身に付けることができるのか。

一つは本を読み、深く考える習慣を身に付けることです。書籍は人間がこれまで築き上げてきた知識の宝庫です。本を読むことで幅広い見識や考え方を身に付けることができます。

もう一つは人との出会いです。他者と交わることで人は成長します。旅をするのもいいでしょう。見知らぬ土地で見知らぬ人と出会うことで、世界観が変わる可能性は大いにあります。特に海外での出会いは日本にいては経験できないかも知れません。

最後に、広島で学ぶ学生として、1945年8月6日に広島市で起こったことは忘れてはならないことです。平和を求める心は人間にしかなく、平和の実現をAIに求めることはできません。ぜひ、平和に対する自らの考えを学生時代に深めてください。

本学での学びと経験が皆さんの人生を豊かにすることを心から願っています。

ご入学の皆さんへ

学長、各学部長、研究科長から新入生に贈るメッセージ



**Challenge yourself to do what you can
here in Hiroshima and out in the world**

国際学部長
国際学研究科長 **大庭 千恵子**
おおば ちえこ

国際学部だからこそ学べる多様な専門科目。地域貢献活動やボランティア、長期や短期の留学。世界各地から受講生が集うHIROSHIMA and PEACE。日本語であれ外国語であれ、生成AIが急速に浸透する時代だからこそ、自分で考え、自分の言葉で伝えることに意味があります。そのためのさまざまな知識と体験、そして柔軟な思考力を磨くための学びが、国際学部にはあります。国際学部が提供する専門分野の中からひとつを選んで深掘してもいいし、複数の分野を大学生ならではの新しい発想で組み合わせてもいい。一人ひとりの関心や目標に応じた選択肢と可能性を見出してください。



**情報科学の未来を
生きる君たちへ**

情報科学部長
情報科学研究科長 **石光 俊介**
いしみつ しゅんすけ

広島市立大学はAIが世の中に広まるずっと前、30年前に情報科学部を立ち上げました。恒久の平和を見つめ未来を照らすようにして立ち上げられた学部です。遠くを照らす灯台が荒波に耐えるように、30年かけて皆さんに情報科学を教育する基礎を築いてきたのです。自分が何をするか覚悟がないうちに、世の中の方が動いていく時代。生成AIも電卓のように作業効率化の道具として使われるようになりました。AIを道具とするヒトには何が求められるのでしょうか。しっかりと基礎を築いてきた情報科学部が灯台のように皆さんの未来を照らします。本学で知識の基礎を築いて未来の自分をしっかりと建設してください。期待しています。



やればできる？

芸術学部長
芸術学研究科長 **吉田 幸弘**
よした ゆきひろ

意気揚々と心弾ませ入学式に臨んだ新入生の皆さんには“やればできる！”と声高にエールを送りたいのはやまやまですが、世の中そう上手くはゆきません。やってもできないことは数多くあるのです。ものづくりの世界でより高みを目指すならば、大学での4年間は、できなかったことを数多く経験することが必要です。やってもできないことに対して真摯に向き合い、なぜできなかったのかを考え、それをいかに克服するかが大事です。私たち教員はできなかったことに対する助言を惜しみません。一つ言えることは何事もやらなければ何もできないということです。4年後の卒業の時、それを克服した人へ真のエールを送りたいと思います。



**戦争・暴力・平和について
考えましょう**

平和学研究科長 **大芝 亮**
おおしば りょう

2022年、ロシアがウクライナへ軍事侵攻し、戦争が始まりました。ロシアは核兵器使用の可能性を繰り返し示唆し、核戦争の脅威は現実的なものとなっています。加えて、2023年には、ハマスとイスラエルの武力衝突が起こり、子どもたちも含む多くの人々が犠牲になっています。戦争を防ぐためにどのような仕組みがこれまで工夫されてきたのか。それでも、なぜ戦争は繰り返されるのか。このような残酷な戦争を終わらせ、さらにさまざまな暴力から人々を守るために、私たちは何ができるのか。被爆地・広島に所在する広島市立大学において、一緒に考えていきましょう。

column1 開学当時を知る教員によるリレーコラム

広島市立大学 開学 30 周年に向けて

ネット時代の幕開けとともに

情報科学研究科 教授 **弘中 哲夫**
ひろなか てつお



広島市立大学が歩んできた30年間を振り返ると、私にとって最も印象深いのは開学当初かもしれません。

大学開学の1994年に広島アジア競技大会が開催され、多くの市大生がボランティアとして大会運営に参加したことは、地域に貢献する大学としての第一歩となりました。また、この大会では、教員有志が中心となりインターネットを使った情報発信を行いました。これは国際スポーツ大会における日本初のネット配信となりました。今となっては隔世の感がありますが、1993年のウェブブラウザの原型発表(Mosaic)を考慮すると、この試みはその時代において先進的であったことが分かります。

中国新聞社から提供を受けたアジア大会の写真や記事、大学側で日本語版、英語版の記事に再編集して発信しましたが、世界中からアクセスがあり、当時としては驚異的なアクセス数を達成しました。大会後の反響も大きく、新聞社をはじめ、全国の大規模なイベントの企画団体などから自分たちもネットによる情報発信をしたいと問い合わせが相次ぎ、「ネット時代が幕を開ける、大学はそのスタート地点にいるのだ」という実感がありました。

もう一つ当時の記憶として印象的だったのは、市大生が大学のインターネット環境を使って自発的に他県の、それこそ全国の大学生とつながり始めたことです。まだ、ネットでつながるうにもそのつながり先自体が少ない状況でしたが、それでも彼らの世界が急速に拡大していく様子には、何か楽しい驚きのようなものがありました。

時代の転換期には前を向いて歩いていくしかありません。そこに多くのチャンスが転がっています。学生の皆さんがぜひ、変化をチャンスと捉え、新たな時代の担い手として活躍していただけることを期待しています。

インターネットを使った
当時の情報発信の様子
(W.B. 1号より)



column2 開学 30 周年 主な記念事業

開学30周年記念式典・記念講演・祝賀会

2024年6月15日(土) 13:30~16:30

場所 ホテルメルパルク広島

講演者 モンテ・カセム氏(国際教養大学理事長・学長)

いちだいち地域共創シンポジウム in ホームカミングデー
「地域と大学のこれからをともに考え、創る」(仮)

2024年10月26日(土) 13:00~19:00

場所 広島市立大学講堂など

内容 第1部 基調講演 第2部 パネル討議

第3部 開学30周年記念同窓会大懇親会

講演者 田中 輝美氏(ローカルジャーナリスト、島根県立大学地域政策学部 准教授)

広島市立大学芸術資料館開学30周年記念展

美術作家として活躍する修了生5名の展覧会

2024年6月7日(金)~6月30日(日)

場所 広島市立大学芸術資料館など

広島市立大学xはつかいち美術ギャラリー共催展

「森永昌司と教え子展」(仮)

2024年12月10日(火)~12月24日(火)

場所 はつかいち美術ギャラリー(廿日市市)

広島市立大学x筆の里工房共催展

「筆の未来を考える一筆跡xDESIGN」(仮)

2025年2月22日(土)~4月13日(日)

場所 筆の里工房(安芸郡熊野町)

「市大生チャレンジ事業」開学30周年記念プロジェクト

学生が地域の課題解決に2年間にわたり取り組む

本学独自の地域・社会貢献プロジェクトを実施

広島平和研究所編『ヒロシマ調査・研究入門』(仮)

ヒロシマを調査・研究するノウハウや関連施設、参考資料などを紹介した学術的入門書(2025年3月発行予定、ザメディアジョン)

広島市立大学附属図書館編

『いちだいちのトリアスロン学生x教員 おすすめ作品集』

読書・美術鑑賞・映画鑑賞推進事業「知のトリアスロン」の過去の推薦コメントを集めた電子ブック(2024年10月発行予定)

卒業生リレーメッセージ動画

卒業生12人によるリレーメッセージ動画を開学30周年特設サイトに掲載(2024年6月公開予定)



開学30周年
特設サイト

30年のあゆみ

現在に至るまでの沿革を振り返ります。

1994

4月
開学

1998

4月
広島平和研究所
開設



2003

7月
「HIROSHIMA
& PEACE」開始



2005

8月
第1回「光の肖像展」
開催



2009

7月
ひろしまコンピュ
タサイエンス塾(開始
2020年度)



2015

4月
「地(知)の拠点
大学による地方
創生推進事業
(COC+」実施
(2019年度)



2014

4月
「基町プロジェクト」
始動



2010

4月
公立大学法人
広島市立大学設置



2018

4月
「さくら」開寮
国際学生寮



2019

4月
平和学研究科開設

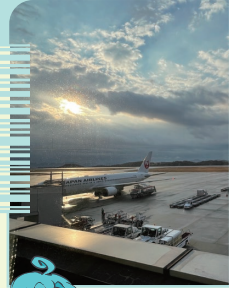


2022

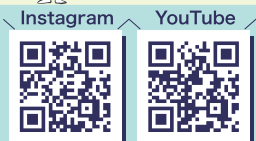
4月
「いちだいち地域共創
プロジェクト」開始

2024

4月
開学
30周年



広島空港、とってもきれいだふい〜！いちレボ公式キャラゼフィ



Instagram YouTube

この記事は、学生の目線から本学の魅力を発信することを目的に活動している、学生広報クルー“いちレボ”の広報誌班が企画・作成しました。

編集統括：芸術学部2年 長原 穂香 デザイン：芸術学部2年 松浦 真菜 ライティング：国際学部4年 石黒 七海



開学30周年企画！今回は、本学の4期生で広電エアサポート株式会社航空部広島空港営業所に勤務中の岡田りえさんにお話を伺いました。岡田さんは国際学部で国際政治を専攻されていたそうです！「当時の大学の様子はあったの？」「広島空港のお仕事ってどんな感じ？」などインタビューしました！